天文用語に關する私見 (6)

(特に野尻氏の文に答へて——ii)

山本一清

Indus を自分は可なり永い間，何の氣もなく單に「インド人」と譯してゐた．之れは全く自分のウカツだつたのである．近年，自分は村上理學士の暗示によつて，卒然として之れを「インデヤン」と變へることにした．理由は多くの人に既に明瞭であらうと思ふ．（「天界」第161號第409頁を見よ）

又 **Mons Mensae** を，自分は十年も以前，人なみに「テーブル山」と譯してゐたやうに覺えてゐる．之れは常道である．——しかし，此の星座名だけに限つては，吾人日本人の立場から，一寸キテンを利かせて，「平山」（ひらやま）と讀むことが，特に許して貰へるやうに思ふ．南アフリカに Table Mountain といふ有名な山があり，此の山の麓でラカイユ等は貴重な天體觀測をした．其の紀念に此の名を新星座の一つに採用した理由は，自分にも充分わかる．しかしながら，こゝに問題は吾々日本人のみが使用するための日本語中に，一つ新しい星座名としての考察である．（他に強いて名案が無ければ好い）日本人に取つては，天文學上から見て，南阿の一隅にある山の名よりも「平山」といふ名の天文先輩を，一人ならず，二人までも有つといふ事實の方が，重大でもあり，また是非に忘れてはならないことではないか!? しからば，幸ひ Mons Mensa といふ原語に相當する日本語を考へる時，之れを「ひらやま」と書いて了うことは，決して之れはユーモアでなしに，大マジメに考へて然るべきものだと思ふ．どうせ外國人に讀ませる名では無いのだから，之れを原語の譯名であるとか，ないとか，辯明する必要を準備することは要らない．

野尻氏が **アンドロメ** を，ベランメと連想され，自分が之れをアンドロ女（め）やヒメと連想するといふのは全く各自隨意であつて，趣味と言はうか，傾向と言はうか，——何れにしても，相互の抗議にはならないものである．

又，こうした事の序でに注意して置きたいが，およそ漢字であらうが，片

カナであらうが，原語から譯してしまへば，其れはもはや日本語であるべき筈であるといふ點だ．決して發音といふことにのみ囚はれてはならない．Andromedaは，いかにも，アンドロメヽダと發音する．しかし之れが其のまゝ日本語と考へなければならない必要はない．語調と簡結とを考へつゝ，又，日本語の精神と將來の運命とを考へて，アントロメが良いと思へば，決してphonetic に囚はれてはならない．——此うした考へで見ると，聖書の中に記されてある固有名詞などは實にスバラシク模範とするに足るものである．イエスも，ペテロも，ヨハネも，ベテレヘムも，エバも，ピリポも，アンテオケも，ピニケも，ペリシテも，ダビデも，ヘロデも，バプテスマも，ペンテコステも，決して此等はギリシヤ語や，ヘブライ語や，ラテン語や，英語や，ドイツ語等々の發音に忠實なものではない．むしろ，それぞれ，元語に暗示され，其れを參考として創造された新しい日本語であると解すべきだ．

Ophiuchus は態々「蛇摑み」にする必要はあるまい．「蛇遣ひ」の方が少しく上品であるし，更に又，このが音便上からも發音し易い．但し，「蛇遣」は不可である．之れは「人が蛇を遣ふ」ではなくて，「蛇が遣ふ」といふ意味になるから．

Cepheus や **Centaurus** などの場合の C の音については，自分は今までに幾度も繰り返し主張の理由を說明したから，野尻氏とても，一應は分つて下さつてゐると思ふ．それにも拘らず，まるで知らないものの如く抗辯せられる態度を一寸變だと思ふが，しかし其れは氏がモ少し根本から考へ直して下さる餘裕の出來る日を待つ．只，近頃自分が或る出版物で偶然見た所であるが，其れは Chicago を「キカゴ」とかき，Cyan を「キヤン」と書いてゐる人の例であつた．なるほど二千年も前のギリシヤ人が其のまゝ今日甦生して來たら，「キカゴ市の博覽會」とか「キナ China 國」とか「ケヽロスタト」Coelostat, 「キガヽ」Cigar, 「キガレト」Cigarette, 「キンキナチ」Cincinati 市，「キトロン」Citron, 「キラス」Cirrus, 「キヴイク」Civic, 「ケイロン」Ceylon, 「ゲネヴ」Genève 市 などと言ふかも知れない!!　(未完)